

平成25年度 糸魚川市教育課程部 活動報告

部長 古畑 伸一

1 糸魚川市教育研究会の活動方針と組織及び主な活動

糸魚川市では、市内の小・中学校、特別支援学校の教職員で「糸魚川市教育研究会」を組織し、研究実践に努めるとともに糸魚川市の学校教育の振興を図っている。研究推進の組織は各教科等（10教科）、道徳、特別活動、保健、栄養、事務の15部会（全会員が1人1部所属）とキャリア教育、学校図書館、生徒指導、へき地・複式、情報教育、特別支援教育、人権教育・同和教育の7部会（可能な限り各校1名所属）の合計22部会で構成している。但し教育課程部会は設けていない。糸魚川市教育研究会の主な活動は、次のとおりである。

- ① 優れた授業に学ぶ会 示範授業と講話 能生小学校6年生 6月25日（火）
講師 筑波大学附属小学校 中田 寿幸氏
- ② 教育課程伝達講習（市教委と共催） 8月19日（月）、8月20日（火）
- ③ 学習指導改善調査協力校実践発表会 8月20日（火） 発表校（木浦小学校）
- ④ 各部等の一斉研修会 11月13日（水）
・上越教育事務所、市教育委員会の指導主事を講師に各部で実施

2 新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査研究協力校実践発表会から

糸魚川市立木浦小学校では、昨年度から新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査研究事業の協力校として学習指導改善に取り組んできた。過去2年間の学習指導改善調査の結果分析から、国語では「必要な情報を選択し、文章を記述すること」算数では「必要な算数的表現、特に算数用語を用いて、筋道を立てて説明すること」に課題があった。この課題改善のために、校内研修と全校算数（学び合い学習）に全校体制で取り組んできた。

校内研修では「学ぶ意欲をもち、自分の考えを伝え合う子どもの育成」を研究主題として、国語科を中心に3点から学習指導の改善を図ってきた。1点目は、単元で付けたい「伝え合う力」を設定する。2点目は、対話、話し合いの場を多く設定する。3点目は、書く活動を多く取り入れる。全校算数（学び合い学習）は、「学ぶ意欲の向上と人間関係づくり能力の育成」をねらいとして、週1回、年間を通して行っている。

この取組の成果として、学習指導改善調査の結果から正答率が向上し、無答率が低くなった。これは、理由や考え方を説明する力が付いてきたからである。また、NRT学力検査の結果から、算数では偏差値平均が上がり、標準偏差が小さくなった。このことから、学力の個人差が縮小したことがうかがえる。これは、全校算数（学び合い学習）の主体的な学びによって基礎・基本の定着が成されたからである。授業中の子どもの様相からは、具体物を使って教えたり、筋道立てて説明したりするようになってきた。

3 成果と課題

糸魚川市教育研究会では、教師一人一人の授業力向上のために、優れた授業に学ぶ会や各教科部を中心にした研究授業を行っている。小学校、中学校の教師が互いの授業を参観し、協議することで、指導力の向上に役立っている。今後、新採用教員が増えるとともに、教育研究会の果たす役割は、益々重要になってくる。